



青森県地域の未来づくりサポート事業

ファシリテーター派遣事業成果報告



平内町 藤沢町内会
(藤沢活性化協議会)

1 地域の現状

藤沢地区は人口273人（平成28年4月現在）で、藤沢コミュニティセンターを中心に、地域コミュニティ活動に積極的に取り組んでいる地域です。

また平成26年度及び平成27年度に青森県集落経営・再生活活性化事業にて地域資源・課題を把握し、地域住民が主体となって活動目標設定を行い、多世代交流や健康教室等の様々な取組をスタートしました。



1 地域の現状：取組の紹介



多世代交流として毎年開催している繭玉づくり
地域にある保育園の園児を招いて制作しており、子どもたちの笑顔を見ると来年もやりたいという思いがこみ上げてくる。

2 実施の背景、課題

いんでねえがふんちゃ

青森県平内町 藤沢地区

今後の取り組み

いんばねがふんちゃ

14

明日を考えるための八ヶ月間の軌跡

これがらいく なるぞ！ 今後、藤沢の活動は？

町内会、子供会、消防団のメンバーを中心に集まって、これまでの様々な調査の結果、先達地視察、住民のアイデアを参考に、これから藤沢で取り組んでゆきたい、取り組んでゆけそうな活動を検討し、選んでみました。また、それらの活動をする上での「心構え」も考えてみました。

活動方針 ～活動をする上での心構え～

- ① やれる人達が無理のないことをする
- ② 身近なものを活用して、それをお小遣いに変える
- ③ 多世代の人々が集まり、交流する機会を増やす
- ④ 藤沢にゆかりのある外の人との交流の機会を増やし、つながりを強くする

● 自分たちでやりたい、すぐできそうな取り組み ～1年以内にスタートしたい！～

目標	取り組みの内容 (今のついで活動は特に入れるもの)
農業収入を増やす (農業の後継者確保？)	○ 野菜や山産物の無人販売所を設置する (販路を広げる)
耕作放棄地の活用	○ 休耕田・耕作放棄地にそばを栽培し、そば打ちを通じて交流する ○ 子どもや大人で畑をつくり、夏と秋に収穫祭を行う ○ 山菜(行香はくなく、ワラビ等)や蕨葉などを栽培して販路を開拓する
交流の場・地区の人口の維持(?)	○ 子どもやお年寄りの集まる機会を増やす ○ 集居・交流のため「どっこ引き」を復活させる ○ 公民館以外に近所で開催される場所をつくる
高齢者の健康維持 (地区の人口の維持?)	○ 前高森山(神社や湧水がある)の林道を整備する ○ 女性健康教室を実施する
獅子舞の後継者の育成	○ 獅子舞の継承に取り組む

藤沢および平内の「おべたふり」
5. 本町通り(代官通り)の謎



● 近い将来やれそう、やりたい取り組み ～3年以内にスタート！?～

- 町内の小中学校で獅子舞練習会を開催する
- インターネット上で山菜や蕨葉情報を販売する
- 方言が大会を開催する
- 空室を活用し茶飲み場や駄菓子屋を開く
- 神社を活用し夜祭りを開催する
- 人形あそびの復活・開催する(人形あそびをつくる)

● 今後できれば・・・やれても5年後以降～

- 田んぼを活用する(お作りしたい人に分譲、田圃アート、プロレス等)
- 八幡宮に湧水が出るようにして名物にする
- 地区内にお店を出す(雑貨ダウンの道)の整備
- 子どもが遊ぶことのできる場所をつくる
- 園遊会に練習口をつくる



取り組みのまとめと評価

いんばねがふんちゃ

14

けっぱると～!! 一年間の活動の評価と 今後に向けて

昨年度末に選んだ、「自分たちでやりたい、すぐできそうな取り組み」のリストのうち、どのくらいのことのできたかについて評価してみました。



● 今年一年間の取り組みの進みか 昨年度末に選んだ「自分たちでやりたい、すぐできそうな取り組み」

目標	取り組みの内容(今のついで活動は特に入れるもの)	現在までの進捗状況(平成28年3月末)
農業収入を増やす (農業の後継者確保?)	○ 野菜や山産物の無人販売所を設置する (販路を広げる)	設置に向けた具体的な検討段階(春にオープン予定)
耕作放棄地の活用	○ 休耕田・耕作放棄地にそばを栽培し、そば打ちを通じて交流する ○ 畑をつくり、夏と秋に収穫祭を行う	○ 休耕田・耕作放棄地にそばを栽培し、そば打ちを通じて交流する ○ 畑をつくり、夏と秋に収穫祭を行う
交流の場・機会をつくる	○ 山菜や蕨葉などを栽培して販路を開拓する	○ 山菜や蕨葉などの栽培に奮闘中 ○ ハタケメダの産地と販路、商品化に向けた研究スタート
高齢者の健康維持 (地区の人口の維持?)	○ 子どもやお年寄りの集まる機会を増やす ○ 集居・交流のため「どっこ引き」を復活させる ○ 公民館以外に近所で開催される場所をつくる	○ 子どもやお年寄りの集まる機会を増やす ○ 集居・交流のため「どっこ引き」を復活させる ○ 公民館以外に近所で開催される場所をつくる
高齢者の健康維持 (地区の人口の維持?)	○ 前高森山(神社や湧水がある)の林道整備	○ 前高森山(神社や湧水がある)の林道整備
獅子舞の後継者の育成	○ 獅子舞の継承に取り組む	○ 獅子舞の継承に取り組む

● 取り組みのまとめと評価

上の表をみると、昨年度末に「自分たちでやりたい、すぐできそうな取り組み」と考え出したことの大半をスタートすることができました。その中でも、「健康教室」「かみ編み」「蕨葉打ち」「蕎麦・山菜の栽培」「子どもや年寄りらしい交流の場づくり」等については、本格的にスタートすることができました。「蕨葉の栽培」等、うまくいかなかったこともありましたが、実際に行動することにより、もっと上手くやるためのコツや手がかりを得ることができました。また、全ての取り組みについて、努力の上で予算上、今後も継続している覚悟を練ることができました。他地域との交流という点については、昨年度から続いている新藤村利用地区との継続的な往來を通じて、沢山の新しい取り組みが始まりました。この二年間の活動を通じて、「とてもいいスタートが切れた」といってよいのではないのでしょうか？

● 今後に向けて

2年間にわたる青森県の集落経営・再生生活事業による藤沢地区の活性化に向けた取り組みの支援は、3月末をもって、ひと区切りを迎えることになりました。藤沢地区は、この事業を最大限に活用することができた、とても高い評価ではないかと感じられます。ただし現在は、あくまでも「スタート」段階であり、「人口減少の制」や「雇用創出」など、地区にとっての重大な課題の解決に向け、やり返された様々な取り組みを大きく育てていくことが決まっています。そのためには、取り組みの「副産物」である、他の地域、行政や大学との関係を豊かにする必要がある。地区の内外を問わず、沢山人気大に活動に加わってもらうことが望まれます。冊子を読んでくださった方、ぜひ一緒にこれからの藤沢をつくっていきましょうか？

いんばねがふんちゃ
花が見えたらいつでも
いつでも、あけます

いんでねえがふんちゃ vol.2



平成26・27年度の取り組みを紹介するパンフレット「いんでねえがふんちゃ」地域の将来イメージや目標を掲げ、今すぐに取り組めることを話し合い、2年間の活動をまとめています。

青森県平内町 藤沢地区

明日を切り拓く、一年間の試み

3 事業実施の内容

平成28年	4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 無人販売所に係る打合せ及び講習会（7月まで毎週開催） ○ 獅子舞保存に係る練習会（7月まで月2回開催） ○ 今年度の取組みについてワークショップ開催
	5月	○ イチから住視察 → 受入先は別の自治体へ…
	6月	
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 「直売所 ふんちゃ」開設 ○ 新郷村川代地区との交流（カゴづくり、パークゴルフ大会） ○ 先進地視察（秋田県大館市外）
	8月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多世代交流夏まつり開催（門付け等） ○ 直売所に係る打合せ（以降、月1回程度開催） ○ 獅子舞保存会に係る練習会（以降、月2回程度開催）
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ○ ハタケシメジの植え込み ○ 新郷村ファン感謝デー参加（貝焼きホタテ販売）
	10月	○ ハタケシメジの収穫
	11月	○ 健康教室開催（3回開催）
12月	○ 藤沢地区座談会	
平成29年	1月	○ 藤沢地区多世代交流新年会
	2月	
	3月	○ 今年度の振り返りワークショップ（予定）

3 実施の内容：直売所に係る打合せ等



無人販売所、ハタケシメジのブランド化、獅子舞の保存についての活動に力を入れるため、ファシリテーター派遣を依頼し、活動がさらに加速化していった。

3 実施の内容: ブランド化に向けた検討



3 実施の内容：直売所ふんちゃ オープン！



目標だった無人販売所「直売所ふんちゃ」を住民みんなの笑顔でオープンを迎えることができた。これまで親交を深めてきた新郷村川代地区の野菜もたくさん並び、あっという間に品切れになった。

3 実施の内容：伝統芸能の継承への取組



伝統芸能である獅子舞保存の取り組みでは、笛の練習を実施し、練習の成果があって、実際に笛の演奏ができるようになった保存会員も生まれた。お盆の時期に実施される行事にファシリテーターの方も参加して、一緒に演奏していただいた。

4 効果・感想

(1) 直売所運営について

- ・ 会員のやりがい。
- ・ 井戸端会議により会話の増加。
- ・ 商品をいかに安定的に供給できるか。
- ・ 会員増加にどのようにつなげるかといった取組が必要。

(2) ブランド化について

- ・ 取り組むべき事項が多いため、様々な活動と参加者が必要。

(3) 伝統芸能の継承について

- ・ 伝統芸能の楽しさを住民に発信。
- ・ まだまだ住民の関心が低い。
- ・ 参加者が興味・関心を抱き、会員増加にどのようにつなげるかといった取組が必要。



ふんちやの将来イメージ

- ◆ 住民がいつまでも若々しく生き生きと
光り輝ける、しごと・ゆとりを持ち、
健康である集落
- ◆ 皆で和気あいあいと楽しく、地域の
つながりが絶えない集落
- ◆ 地区の外の人にも魅力的で、新しい人
やアイデアを受け入れる開かれた集落

5 今後の展望

現在取り組んでいる活動や、今後の地区の将来像は、多くの人々が課題と感じている問題を直接解決するものではないかもしれない。

ふんちやの人と人との繋がりが、自分達の地区にある身近な資源を大切にし、将来イメージに向かって、無理なくやれる範囲で活動を行っていくことで、それが大きな課題を解決する力になっていく。

